

## 1. DMの保存

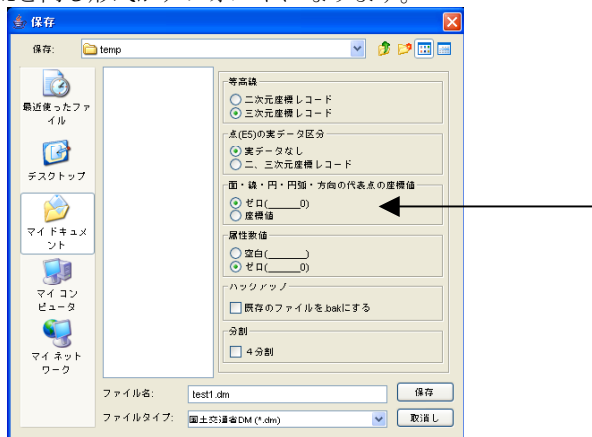
DMの保存時に、要素レコードの代表点の座標値の形式を指定できるようにしました。

DM保存時に等高線については、標高値を要素レコードの属性数値にセットしますが、二次元座標レコードか三次元座標レコード出力が指定できます。開いたDMデータファイルの等高線が二次元座標レコードで記録されていた場合、このダイアログのデフォルトは二次元座標レコードに、三次元座標レコードで記録されていた場合、デフォルトは三次元座標レコードになります。

同様に、点要素(E5)の座標について、要素レコードの代表点の座標値あるいは二次元座標レコード・三次元座標レコードでの記録に対応し、出力時にも指定できます。

面・線・円・円弧・方向の代表点の座標値について、スペースと0を出力するか、始点や円・円弧の中心の座標値を出力するかを指定できます。開いたDMデータファイルの形式がデフォルトになっています。

等高線や基準点など以外の要素について、属性数値の欄を全てスペースにするか、スペースと0にするかを指定できます。開いたDMと同じ形式がデフォルトになります。



## 2. DMを開く

DMを開く際に、以下のチェックを追加しました。

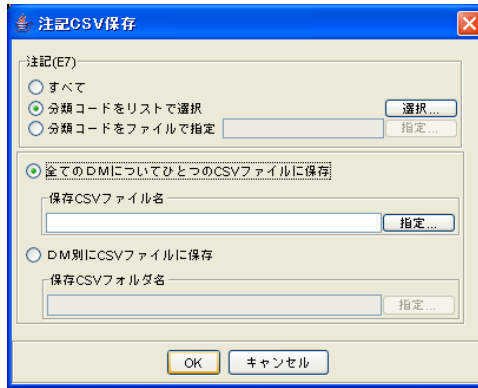
要素レコード(f)について、以下のチェックを行います、エラーを[レポート]パネルに赤色で表示します。

- 撮影コース数過剰：空白であるべきカラムが空白でない場合、レポートします。
- 撮影コースの不足：写真の枚数が2から9以外の空白などの場合、レポートします。
- 写真の枚数と始点と終点の写真番号の差が異なる場合、レポートします。

## 3. ポリゴンの重複チェック

新メニュー[ファイル]-[注記 CSV 保存]を追加しました。

開いているDMデータについて、注記のみを CSV ファイルに保存できます。これは標準版の機能で、チェック版では使えません。



【分類コードをファイルで指定】「15.5.分類コード指定ファイル」を参照してください。

【全ての DM についてひとつの CSV ファイルに保存】開いている DM データファイルすべてについて、ひとつの CSV ファイルに保存します。保存する CSV ファイル名を指定します。

【DM 毎に CSV ファイルに保存】開いている DM データファイル別に CSV ファイルを保存します。保存するフォルダを指定します。CSV ファイル名は DM データファイル名+.csv になります。

保存する CSV ファイルの一行目はヘッダで、各列の説明です。データは 2 行目からです。

列	型	内容
1	文字列	図郭識別番号
2	整数	取得分類コード
3	文字列	注記の名称
4	実数	字大 mm 単位で小数点以下 1 桁 (DM データファイルでは 0.1mm 単位の整数で記録)
5	実数	字隔 mm 単位で小数点以下 1 桁 (DM データファイルでは 0.1mm 単位の整数で記録)
6	整数	縦横区分 横書きは 0、縦書きは 1
7	整数	文字列の方向 度単位で-180° から 180° まで
8	実数	測量座標の X 代表点の座標値 平面直角座標系の m 単位
9	実数	測量座標の Y 代表点の座標値 平面直角座標系の m 単位

出力例

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	図郭識別番号	取得分類コード	注記の名称	字大	字隔	縦横区分	文字列の方向	X座標	Y座標
2		8121	県道〇〇	3	3	1	-127	-68509.56	5785.29
3		8125	〇〇橋	2.5	1.3	1	-90	-68680.73	5685.95
4		8125	新〇〇橋	2.5	1.3	1	-90	-68922.7	5569.33
5		8131	〇〇神社	2.5	0.6	0	0	-68141.08	5667.78
6		8131	〇〇寺	2.5	0.6	0	0	-68183.13	5666.94
7		8131	〇〇宮	2.5	0.6	0	0	-68682.01	5465.06
8		8131	〇〇公民館	2.5	0.6	0	0	-68449.96	5752.92
9		8131	〇〇	2.5	0.6	0	0	-68968.13	5631.32
10		8131	クリーンセンター	2.5	0.6	0	0	-68975.47	5631.09
11		8151	〇〇川	3.5	3.5	1	-135	-68574.41	5852.8

#### 4. 近接線チェック

[チェック]-[近接線チェック]で、隙間の最小値の扱いについて、次のように変更しました。

変更前：対象の線分の始点・終点・中点の 3 点とも、参照する線分との距離が範囲内にある場合にリストアップします。

変更後：対象の線分の始点・終点・中点の 3 点すべてが、隙間の最小値より近い場合リストアップしません。

#### 5. 滝の記号

方向(E6)の滝の記号が 1 8 0 度反転していました。DMSymbol2500.dxf, DMSymbol1000.dxf, DMSymbol0500.dxf を修正しました。

## 6. 図郭レコード変更

新メニュー[一括処理]-[図郭レコード変更]を追加しました。

開いているDMデータの図郭レコードについて、共通する項目をまとめて変更します。

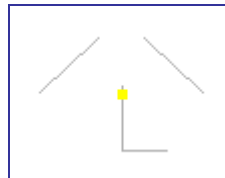
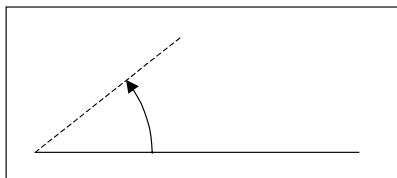
最初に開いたDMデータの図郭レコードの内容をダイアログに表示します。[OK]ボタンで、開いているDMデータ全ての図郭レコードの内容を変更します。

## 7. 点(E5)を方向(E6)に変更

新メニュー[一括処理]-[点(E5)を方向(E6)に変更]を追加しました。

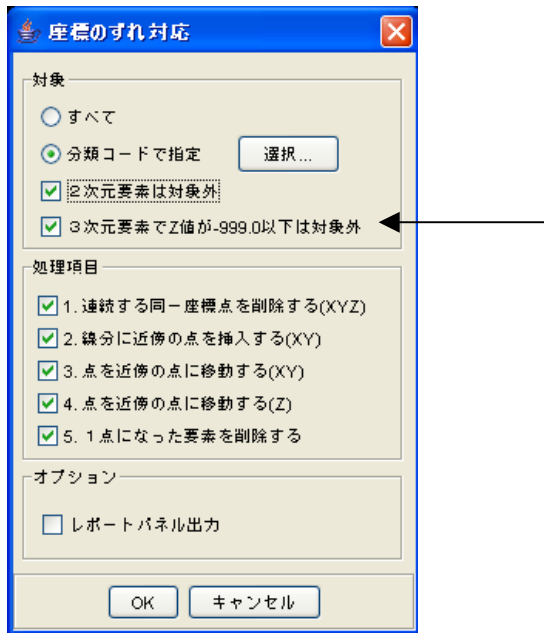
指定された分類コードの点(E5)を方向(E6)に変更します。また、指定された角度で回転させます。

角度は下図のように指定します。角度が0の場合、点(E5)と同じ記号を表示します。



## 8. 座標のずれ対応

[一括処理]-[座標のずれ対応]で、オプションの名称を「Z値が-999.0以下は対象外」を「3次元要素でZ値が-999.0以下は対象外」に変更しました。このオプションがONの場合、2次元要素も対象外にしていましたが、3次元要素に限定して対象外にするように変更しました。



## 9. ポリゴン内の代表点

[共有デジタル地図検査]-[ポリゴン内の代表点]で、道路と水域など、2組の組み合わせを指定して一度に検査できるようにしました。また、ポリゴンの境界線を構成する要素がない場合、図郭にひとつの代表点に対応することを検査する機能を追加しました。

<http://www.geocoach.co.jp/download/GeoCoach3D-Option-RelationCheck.pdf>

## 10. DXF 出力

DMデータのDXFファイル保存オプションで、レイヤ名について、分類コードと図形区分の順で6桁の数値とする機能を追加しました。

点(E5)と方向(E6)の記号出力で、要素の分類コードと図形区分の組に対応する記号がない場合、図形区分が非区分の記号をブロック参照するように修正しました。

<http://www.geocoach.co.jp/download/GeoCoach3D-Option-DM2DXF.pdf>